



日本のどこで 恐竜の化石は発見されたの

最初の恐竜の化石の発見は、岩手県 岩泉町

日本で恐竜の化石が初めて発見されたのは、岩手県 岩泉町で、植物を食べていた首の長い恐竜 モシリユウの前足でした。恐竜が生きていたのは、2億2000万～6500万年前までの1億4000万年の間です。この中でも、恐竜が種類や数をふやしていった1億4000万年前後の地層「手取層群」が、石川県、福井県、富山県、岐阜県一帯に広がっています。日本で今まで発見された恐竜の化石の90%以上が、この手取層群という地層から見つかっています。このころの日本は、一部がアジア大陸につながり、あとはほとんど浅い海の底で、今の日本列島とはまったくちがったものでした。日本海もまだありませんでした。

恐竜の化石は、各地で発見されている

この手取層群から、初めて恐竜の化石を発見したのは女子中学生で、発見場所は、石川県 白峰村でした。その化石は、肉食恐竜 メガロサウルスの歯でした。

その後、群馬県中里村でつい骨、福島県広野町やいわき市で、歯や首の骨が、岐阜県 荘川村で歯、福岡県宮田町や北九州市で歯、熊本県御船町や御所浦町で歯や中足骨、徳島県 勝浦町でイグアノドンの歯、北海道小平町や夕張市で、大たい骨、頭骨、歯、などがみつかっています。

いちばん多いのは、福井県勝山市で、歯や尺骨、上あごの骨、かぎつめ、大たい骨など、さまざまな種類の恐竜の、いろいろな化石が見つかっています。石川県白峰村も多く、肉食恐竜のメガロサウルスやイグアノドンの仲間歯、草食恐竜の歯などが発見され、石川県尾口村では、イグアノドンのひ骨が見つかっています。富山県では、恐竜の足あとが、たくさんみつかっています。(監修・今泉 忠明)

